



伝統工芸の名品と現代工芸の気鋭の新作を同時に楽しめます！

第3回

そば猪口アート

公募展

世界から公募した国際展(巡回展)

2014年12月13日(土) - 2015年1月18日(日)

開館時間 = 9:00 ~ 17:00 (12月は19:00まで)

休館日 = 月曜日 (月曜日が祝日の場合はその翌日)、
年末年始 (12月29日[月] ~ 1月3日[土])

会場 = 白鷹町文化交流センター あゆむ AYU:M

〒992-0771 山形県西置賜郡白鷹町大字鮎貝 7331 番地

観覧料 = 一般個人200円、高校生以下無料

主催 = 白鷹町文化交流センター

協力 = 中山町教育委員会、柏倉九左エ門家、

そば猪口アート展実行委員会、安曇野高橋節郎記念美術館

後援 = 白鷹町、白鷹町教育委員会

お問合せ = 白鷹町文化交流センター ☎ 0238-85-9071



柏倉九左エ門家 名品展

出羽の国の大庄屋(中山町)に伝わる名品の数々



関連事業 文化講演会

講演「日本の里山、どこに行く日本」

講師 三田村有純 (東京藝術大学学長特命)

対談「何を護り、何を伝えるか」

柏倉桂子 × 三田村有純

(柏倉家第十六代当主)

日時 = 12月21日(日) 13:30 ~ 16:00

会場 = ホール

聴講料 = 無料



第3回 そば猪口アート 公募展

本年で第3回になる本公募展は、長野県安曇野市の「安曇野高橋節郎記念美術館」と「そば猪口アート展実行委員会（安曇野市、東京藝術大学、安曇野高橋節郎記念美術館友の会、現代工芸美術家協会長野会、安曇野スタイルネットワーク）」が主催して、世界から応募を募る国際公募展であり、その巡回展の第1回として、白鷹町文化交流センターで開催されるものです。

今年は昨年を上回る278点の応募があり、台湾の作家の作品を含めて100点が入選、内10点が受賞となりました。多様な素材と技法を駆使した様々な意匠の競演となりました。

展示は入選作100点のうち半数の50点を年内に展示。年が明けた1月から残りの半数を入れ替え展示します。



プロフィール

三田村有純

東京藝術大学学長特命、美術学部教授。現代漆芸作家として活躍。江戸蒔絵赤塚派十代継承。柏倉家の漆塗りの客用風呂場の修復を監修する。「そば猪口アート公募展」の実行委員長でもあり、この2つの展覧会を結ぶキーパーソン。平成26年度改組新第1回「日展」日展会員賞受賞（工芸美術部門）。

柏倉九左工門家は1653年（承応2年）頃、現在の山形市柏倉門伝より、東村山郡中山町・岡に移り住み、1731年（享保16年）から15年間にわたり、山形藩堀田領蔵増組の大庄屋を勤めた旧家です。江戸期を通じて土地集積を重ね、豪農として力を養い、明治以後には県内屈指の大地主となり、240町歩余の田畑所有地があったと推測されています。現在の屋敷は、敷地2306坪、建物面積約360坪を誇る江戸中期の建物です。

今回の展示は、輪島塗の漆器を中心に構成し、中には、地元輪島でも見ることが難しいと言われる名工黒川碩舟の作とみられるものが2点あります。その他、山形県指定有形文化財の郷目貞繁（ごうのめさだしげ）『釈迦出山之図』、菅原白龍『花卉図』屏風、蠟型鋳物の名品、江戸時代の着物地貼交屏風など多彩な名品を展示します。



柏倉九左工門家 名品展

柏倉桂子

昭和16年中山町に生まれる。中央大学文学部を卒業し、東京銀行本店入行。5年後帰郷して母と共に柏倉家を支える。昭和55年柏倉家、山形県有形文化財に指定される。煎茶道、香道教授、柏倉家第十六代当主として現在に至る。柏倉家が伝える日本の文化を消さないためにもこの家を守る、という強い決意で、住み継ぎつつ文化財を守っている。



白鷹町文化交流センターAYU:M

〒992-0771 山形県西置賜郡白鷹町大字鮎貝7331番地
TEL.0238-85-9071

- 【アクセス】
- お車でお越しの場合
山形市より国道348号線で約35分
 - 電車でお越しの場合
赤湯駅より山形鉄道フラワー長井線〔荒砥行き〕で「四季の郷駅」下車（赤湯駅から約50分）徒歩約4分